

国立国語研究所学術情報リポジトリ

世界の言語研究所（14） 国立英語学習到達研究センター（アメリカ合衆国）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2132

国立英語学習到達研究センター (アメリカ合衆国)

杉本 明子 (国立国語研究所)

1. 設立の経緯・目的

国立英語学習到達研究センター (The National Research Center on English Learning & Achievement: 以下, CELAと略す) は, 児童生徒の英語の読み書き能力を向上させるための研究活動を行うことを目的として, アメリカ合衆国の教育省の教育科学機関 (IES) の資金援助を受けて設立された唯一の国立研究開発センターである。

CELAは, 1987年に, ニューヨーク州立大学オルバニー校が中心となって, 文学の教育と学習について研究することを目的とした「文学学習教育センター」(The Center for the Learning & Teaching of Literature) として発足した。1991年に「国立文学教育学習研究センター」(The National Research Center on Literature Teaching & Learning) と改称し, 1995年までの8年間に, 教師や政策担当者に対して, どのような文学をどのような生徒に対していかに教えるかに関する最初の基本的な研究成果を提供した。これらの研究成果は全米に急速に普及し, 米国の文学カリキュラム, 教授, 評価法に大きな影響を与えた。1995年, 教育研究開発局 (OERI) から新たな資金援助を得て, 研究対象を英語全般の教育と学習に拡大し, ウィスコンシン大学マディソン校, ジョージア大学, ワシントン大学が共同研究機関として加わって現在の「国立英語学習到達研究センター」(CELA) になった。

CELAは, その歴史を通して, 英語が第1言語でない子ども達や経済的に恵まれない地域の子どもの達等, 英語の学習が遅れている子ども達がいる学校やクラスにとって効果的な英語教育を開発することに主眼を置いてきた。特に, CELAの研究では, 全ての児童生徒が学校, コミュニティ, 職場で必要な読み書き能力や一般的な言語スキルを向上させるために, どのようなカリキュラム・教授・評価法が最も効果的なのかを明らかにすることに焦点を当ててきた。そして, これらの研究成果から, 教師, 親, 行政・政策担当者, 教育コーディネーター等が必要なアプローチを選択できるように情報を提供してきたのである。2000年には, CELAの成果を学校に導入し評価できるようにするために, 学校と連携した実験研究が始まった。その一連の研究は現在進行中である。

2. 活動と社会的影響

(1) 教育内容の改善

CELAの設立当初, 米国ではどのような文学を学校で教えるべきかについては熱心に議論され

ていたが、実際に学校でどのような文学が取り扱われているかについてはほとんどわかっていなかった。そこで、CELAは、米国の7年生から12年生の各学年で最も広く取り扱われている文学作品について全国調査を行ったところ、(a) 1900年以来文学のカリキュラムはほとんど変わっていないこと、(b) マイノリティや女性によって書かれた文学作品や最近の文学作品がほとんど取り扱われていないこと、(c) シェイクスピアやトウェイン等の作品が依然として広く使われていること等がわかった。この結果は、米国のその日のトップ10ニュースの1つとして報道され、国内外の新聞・雑誌で取り上げられて、教師や政策担当者を驚かせた。教師や出版社は、この研究結果から教育内容や教材を見直し、幅広い文学作品を取り扱うようになった。

(2) 教授・学習の改善

CELAは、教育内容に関する研究と併せて、児童生徒の文学に関する知識や読解力不足に対処するために、文学の理解に関わる認知・言語的ストラテジーについての研究も行った。その結果、文学の読解に重要なストラテジーは、伝統的な読解の授業で教えられているストラテジーとは異なっていることを発見し、効果的な文学教育を行うための枠組みを提案した。The National Assessment of Educational Progress (NAEP) は、この研究結果に基づいて文学教育の枠組みを変更し、各州の教育委員会に通達した。ほとんどの州のカリキュラムの基準がこの枠組みに基づいて改定され、教室での教授方法も改革された。また、主な英語教育の出版社は、この枠組みを教材に導入し、テレビのAnnenberg/CPBチャンネルは、この枠組みを利用して文学教育のためのビデオ・シリーズを作成した。

(3) カリキュラムの改善

CELAは、さらに、児童生徒が、学校、職場、家庭、コミュニティでの生活に必要な読み書き能力を発達させることを支援するために、初等・中等学校でどのようなカリキュラムを作成したらよいかに関して研究を行った。その結果、次のような成果が得られた。(a) 読み書き能力が不十分である子ども達に特別のプログラムを用意すると同時に、通常の生徒と同じ基準に到達できるようなカリキュラムを作成する必要性が認められ、これが法制化された。(b) 英語と他の教科を統合するカリキュラムの見直しが行われ、歴史、数学、科学などの分野の議論に効果的に参加し理解を深めるための方法を学べるような教育実践が行われるようになった。(c) 難しい課題に必要なスキルやストラテジーを獲得するための指導の重要性が認識された。(d) カリキュラムと教授の一貫性を確保するとともに、カリキュラムと評価を結びつける必要性が認識された。

(4) 普及活動

CELAは、研究成果を、教師、州・地域の政策担当者、英語教育コーディネーター、教師養成担当者から親まで幅広い人々に知ってもらい教育実践の場で利用してもらえるようにするために、様々な活動を行ってきた。例えば、(a) 学校の教師達と定期的会って相談を受けたり指導を行ったりするとともに、研修会等を開催してきた。また、(b) 研究成果を教師や行政・政策担当者等に理解してもらい教育実践に生かしてもらうために、実際の教室例や指導方法等が記載されたわかりやすいブックレットや、指導者のための重要文献や夏期講習の指導基準等が

示されたハンドブックを作成してきた。さらに、(c) 研究成果を学会誌や学会発表で公表するだけでなく、研究者コミュニティ外の様々な人々へ情報がゆき渡るようにするために多様なメディアを利用して情報提供を行ってきた。例えば、ニューズレターやレポート等の印刷物を配布したり、Webサイトからファイルをダウンロードできるようにした。2001年には、CELAのホームページの閲覧件数は年間200万件以上に上り、人気がある30のファイルは4万件近くダウンロードされた。また、7万7千人の会員を持つThe National Council of Teachers of English (NCTE) と、9万人の会員を持ち世界中に35万人以上のネットワークを持つThe International Reading Association (IRA) と連携して、CELAの成果に関する情報を提供してきた。その他、CELAの成果を理解し教育実践に適用できるようにデザインした英語教育のテレビ番組も制作されている。

3. 研究プロジェクト

CELAの現在の主要な研究プロジェクトは、次の7つである。

(1) 学校との連携

CELAは、これまでの研究において生徒の読み書き能力を向上させるのに効果的であることが示された計画・プログラム・教授過程を様々な教育現場に導入し評価するために、中等学校と共同で研究を行っている。

(2) テクノロジーとの統合

教室での生徒の読み書きの学習を促進するために、教師がどのようにしたら最も効果的にコンピュータを利用できるかについて調べる新しいテクノロジー導入に関する研究を行っている。

(3) 効果的な言語教育

読み書きの学習において最も効果的な教室実践はどのようなものかに関する研究プロジェクトを実施している。

(4) 模範的な中等・高等学校教育の特徴

カリキュラム、教授法、教師の専門性に焦点を当て、優れた読み書き能力を持つ生徒達の学校の授業の特徴を明らかにすることを目的とした研究を行っている。

(5) 教科学習における言語の役割

生徒が様々な教科でよい成績を修められるようにするために、各々の教科に必要な読み書き能力に焦点を当てた研究を実施している。

(6) 読み書きの文化的・歴史的文脈

経済やテクノロジーの発展が読み書き教育の要請と機会にどのように影響を与えているのかについて調べるために、異なる時代の様々な文化に焦点を当てた研究を行っている。

(7) 教師教育と専門性の発達

新人教師が学校で学んだことを実際の教育現場で効果的に使えるようにするために必要なことを明らかにするための教員養成プログラムの研究を行っている。研究チームは、経験豊富な教師の役割と新人教師への影響についても研究している。

以上のように、CELAは、様々な角度から読み書き能力を発達させるための研究を精力的に行うと同時に、絶えず研究成果を教育実践の場で検証し、教育実践に役立つような教材開発や指導法の検討を行い、その成果を社会の様々な立場の人々へ提供する活動を行ってきた。このような活動は、英語教育のみならず、世界中の様々な言語教育に対しても重要な示唆を与えるだろう。

本稿は、CELAの許可を得て、CELAホームページや配布資料等の情報に基づいて作成された。CELAのホームページ (<http://cela.albany.edu>) に、より詳細な活動や研究プロジェクトの紹介、出版物の一覧とダウンロードできるレポート、学会・会議の予定等が掲載されている。

連絡先

The National Research Center on English Learning & Achievement
School of Education
University at Albany
1400 Washington Ave.
Albany, NY 12222 USA
Tel: 518-442-5026
FAX: 518-442-5933
E-mail: cela@albany.edu
URL : <http://cela.albany.edu>